

審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者
I 審議事項				
1. 規則関係				
提案1	「委員会及び分科会等に係る特任連携会員の選考の在り方について」の一部を改正すること	渡辺副会長	B(7-8) 特任連携会員の選考についてより抑制的な運用を図るため、委員会等における任命の上限について改正する必要があるため。	渡辺副会長
2. 委員会関係				
提案2	(幹事会附置委員会) 地方学術会議委員会 (1)設置及び運営要綱の決定	渡辺副会長	B(9) 地方学術会議に関する事項について審議するため、日本学術会議会則第25条第1項の幹事会附置委員会として委員会の設置及び運営要綱を決定する必要があるため。	渡辺副会長
提案3	(機能別委員会) 科学者委員会 (1)分科会委員の決定(新規1件、追加1件)	会長	B(11) 分科会における委員を決定する必要があるため。	三成副会長
提案4	(機能別委員会) 科学と社会委員会 (1)分科会委員の決定(追加1件)	会長	B(13-14) 分科会の委員構成の変更に伴い、運営要綱を一部改正するとともに、分科会委員を決定する必要があるため。	渡辺副会長
提案5	(機能別委員会) 国際委員会 (1)分科会委員の決定(新規1件)	会長	B(15) 科学者に関する国際人権対応分科会における委員を決定する必要があるため。	武内副会長
提案6	(分野別委員会) (1)運営要綱の一部改正(新規設置5件、委員構成の変更1件) (2)委員会及び分科会委員の決定 (【委員会及び分科会】新規2件、追加5件【小委員会】新規4件)	(1)史学学委員会委員長、地域研究委員会、物理学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長、化学委員会委員長、総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長 (2)各部部长	B(17-29) 分科会の設置等に伴い、運営要綱を一部改正するとともに、分野別委員会における委員等を決定する必要があるため。	会長 各部部长

提案7	(分野別委員会合同分科会) (1) 第三部合同分科会を設置すること (新規1件) (2) 分科会委員の決定 (新規1件)	第三部部長	B(31-32)	第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会を設置するため。	第三部部長
提案8	(課題別委員会) 自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会 (1) 委員会委員の決定(追加1件)	会長	B(33)	自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会における委員を決定するため。	渡辺副会長

3. 国際関係

提案9	平成30年度代表派遣について、実施計画に基づく7-9月期の会議派遣者を決定すること	会長	B(35-37)	平成30年度代表派遣実施計画に基づき、7-9月期の会議派遣者を決定するため。	武内副会長
-----	---	----	----------	--	-------

4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【平成30年度第2四半期】追加

提案10	学術フォーラム 「エネルギー科学技術教育の現状と課題」(仮題)	会長	B(41-42) ※全体概要 B(39-40)	主催：日本学術会議 日時：平成30年9月8日(土) 13:00~17:30 場所：日本学術会議講堂	—
提案11	公開シンポジウム 「国際光デー記念シンポジウム」の開催について	総合工学委員会委員長	B(43)	主催：日本学術会議 総合工学委員会IC0分科会 日時：平成30年7月7日(土) 15:00-17:00 場所：日本学術会議講堂 外1室 ※第三部承認	—

5. その他のシンポジウム等

提案12	公開シンポジウム 「高等学校での主権者教育はどうあるべきか」	政治学委員会委員長	B(45)	主催：日本学術会議政治学委員会政治過程分科会 日時：平成30年6月8日(金) 10:50~11:40 場所：明治大学附属明治高等学校 ※第一部承認	—
提案13	公開シンポジウム 「東日本大震災後の10年を見据えて」	第一部部長	B(47-48)	主催：日本学術会議第一部、東北地区会議、国立大学法人東北大学 日時：平成30年7月29日(日) 13:30~16:45 場所：東北大学川内南キャンパス ※第一部承認	—

提案14	公開シンポジウム 「新たな発見をもたらす科学における計測と予知・予測」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、農学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、薬学委員会委員長、情報学委員会委員長	B(49-50)	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同IUPAB分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会 日時：平成30年8月31日（金） 13：00～18：00 場所：日本学術会議 講堂 ※第二部承認	—
提案15	公開シンポジウム 「野生動物との共存を目指して」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長	B(51)	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同ワイルドライフサイエンス分科会 日時：平成30年6月11日（月） 13:30～16:15 場所：京都大学 芝蘭会館 稲盛ホール ※第二部承認	—
提案16	公開シンポジウム 「科学と市民と農業-科学技術イノベーションの役割-」の開催について	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長	B(53-54)	主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分科会 日時：平成30年9月21日（金） 13:00～17:00 場所：東京農工大学府中キャンパス大講堂 ※第二部承認	—
提案17	公開シンポジウム 「高度実践看護師の裁量権拡大を考える-健やかな超高齢社会の実現へ向けて-」の開催について	健康・生活科学委員会委員長	B(55-56)	主催：日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会、日本看護系学会協議会 日時：平成30年6月27日（水） 15:45～17:30 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—
提案18	公開シンポジウム 「昆虫の恵みⅡ」の開催について	農学委員会委員長	B(57-58)	主催：日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会 日時：平成30年7月28日（土） 13:00～16:45 場所：東京大学農学部1号館8番教室 ※第二部承認	—
提案19	公開学術講演会 「東日本大震災後の福島県立医科大学の対応-福島県『県民健康調査他』-」（仮題）の開催について	第二部部長	B(59-60)	主催：日本学術会議第二部 日時：平成30年8月5日（日） 15:00～17:30 場所：福島県立医科大学 講堂 ※第二部承認	—

提案20	公開シンポジウム 「グローバル時代のデータ利用と可視化」 の開催について	地球惑星科学委員会委員長	B(61-62)	主催：日本学術会議 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会 日時：平成30年10月15日（月） 13:30～17:00 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認	—
提案21	公開シンポジウム 「キャビテーションに関するシンポジウム（第19回）」 の開催について	機械工学委員会委員長	B(63-64)	主催：日本学術会議 機械工学委員会 日時：平成30年10月18日（木） 13:00～19:00 10月19日（金） 9:00～17:30 場所：北海道大学工学部フロンティア応用科学研究棟 ※第三部承認	—
提案22	公開シンポジウム 「安全工学シンポジウム2018」の開催について	総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	B(65-67)	主催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 日時：平成30年7月4日（水）～7月6日（金） 10:00～16:00 場所：日本学術会議講堂 外5室 ※第三部承認	—
提案23	公開シンポジウム 「SDGs時代における資源開発後の鉱山環境対策のあり方」	環境学委員会委員長、総合工学委員会委員長、材料工学委員会委員長	B(69-70)	主催：日本学術会議 環境学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会 SDGsのための資源・材料の循環使用検討分科会 日時：平成30年7月30日（月） 13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認	—
提案24	公開シンポジウム 「人工知能(AI)やロボットは百寿社会を幸福にするのか？」の開催について	情報学委員会委員長	B(71-72)	主催：日本学術会議 情報学委員会 環境知能分科会 日時：平成30年9月13日（木） 13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認	—

6. 後援

<p>提案25</p>	<p>国内会議の後援を すること</p>	<p>会長</p>	<p>一</p> <p>以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。</p> <p>①<u>公益社団法人日本天文学会 全国同時七夕講演会2018</u> 主催：公益社団法人日本天文学会 期間：平成30年7～8月 場所：全国各地 参加予定者数：数千人 申請者：公益社団法人日本天文学会 会長 柴田一成 ※第三部承認</p> <p>②<u>健康・省エネシンポジウムXI</u> 主催：一般社団法人健康・省エネ住宅を推進する国民会議 期間：平成30年6月5日(火) 場所：経団連会館カンファレンス 参加予定者数：250名 申請者：一般社団法人 健康・省エネ住宅を推進する国民会議理事長 上原裕之 ※第二部、第三部承認</p> <p>③<u>第7回JACI/GSCシンポジウム</u> 主催：公益社団法人新化学技術推進協会 期間：平成30年6月14日(木)～15日(金) 場所：ANAクラウンプラザホテル神戸 参加予定者数：約700名 申請者：公益社団法人新化学技術推進協会会長 石塚博昭 ※第三部承認</p> <p>④<u>第44回全国語学教育学会年次国際大会</u> 主催：特定非営利活動法人全国語学教育学会 期間：平成30年11月23日(金)～26日(月) 場所：静岡県コンベンションアーツセンター 参加予定者数：約1,600名 申請者：特定非営利活動法人全国語学教育学会代表 リッチモンド ストゥーループ ※第一部承認</p>	<p>会長</p>
-------------	--------------------------	-----------	---	-----------

II その他

	件名	資料
1.	第23期放射線防護・リスクマネジメント分科会報告「子どもの放射線被ばくの影響と今後の課題－現在の科学的知見を福島で生かすために－」に対する質問状等について	参考1
2.	今後の総会及び幹事会開催予定 次回幹事会は6月28日(木)13時30分開催 9月幹事会の日付を12日(水)に変更	参考2
3.	第1回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」について	参考3

○委員会及び分科会等に係る特任連携会員の選考の在り方について（平成23年12月21日日本学術会議第142回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p>第2 委員会及び分科会等の審議に参画する特任連携会員の選考要件は、次の各号のとおりとする。</p> <p>(1)・(2) (略)</p> <p>(3) 委員構成に占める割合 分野別委員会及び同委員会に置かれる分科会等（国際対応分科会等を除く。）の特任連携会員数は、それぞれ、1名（特段の事情のある場合には、2名）を超えないこととする。</p> <p><u>機能別委員会に置かれる分科会等、課題別委員会、幹事会の附置委員会、これらの委員会に置かれる分科会等、分野別委員会に置かれる国際対応分科会等並びに若手アカデミー及び同アカデミーに置かれる分科会の場合には、特任連携会員数は、それぞれ、委員数の5分の1に相当する数又は10人のいずれか少ない数を超えないこととする。</u></p> <p>(4) (3)の後段に掲げる基準によらないこととした事情があるとき <u>特任連携会員数は、委員数の2分の1に相当する数又は10人のいずれか少ない数を超えないこととする。この場合においては、会長、部長又はこれらの指名する者は、当該事情を記載した書面を幹事会に提出し、(3)の後段に掲げる基準によらないことにつき、幹事会の承認を受けなければなら</u></p>	<p>第2 委員会及び分科会等の審議に参画する特任連携会員の選考要件は、次の各号のとおりとする。</p> <p>(1)・(2) (略)</p> <p>(3) 委員構成に占める割合 分野別委員会及び同委員会に置かれる分科会等（国際対応分科会等を除く。）の特任連携会員数は、それぞれ、1名（特段の事情のある場合には、2名）を超えないこととする。</p> <p><u>機能別委員会に置かれる分科会等（分野別委員会に置かれる国際対応分科会等と兼ねているものを除く。）、課題別委員会、幹事会の附置委員会、これらの委員会に置かれる分科会等並びに若手アカデミー及び同アカデミーに置かれる分科会の場合には、特任連携会員数は特段の事情のある場合を除き、それぞれ、委員数の2分の1を超えないこととする。</u></p> <p>(新設)</p>

<p><u>ない。</u></p> <p><u>(5) 特任連携会員数</u></p> <p>特任連携会員は一般の連携会員を補完するという位置づけであることに鑑み、その総数は一般の連携会員と特任連携会員を合わせた数の10%程度を上限とし、抑制的に運用する。</p> <p>当分の間、部ごと（部がつかさどる科学分野ごと）の特任連携会員数の上限及び国際業務に携わる特任連携会員数の上限の設定は行わないが、上記の10%程度の上限を念頭に、抑制的に、幹事会において適宜、調整を図ることとする。</p>	<p><u>(4) 特任連携会員数</u></p> <p>特任連携会員は一般の連携会員を補完するという位置づけであることに鑑み、その総数は一般の連携会員と特任連携会員を合わせた数の10%程度を上限とし、抑制的に運用する。</p> <p>当分の間、部ごと（部がつかさどる科学分野ごと）の特任連携会員数の上限及び国際業務に携わる特任連携会員数の上限の設定は行わないが、上記の10%程度の上限を念頭に、抑制的に、幹事会において適宜、調整を図ることとする。</p>
--	--

附則（平成30年5月31日日本学術会議第264回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

●地方学術会議委員会運営要綱（案）

提案 2

〔平成 30 年 月 日〕
日本学術会議第 回幹事会決定

（設置）

第 1 地方学術会議委員会（以下「委員会」という。）は、日本学術会議会則第 25 条第 1 項に基づく委員会として幹事会に附置する。

（任務）

第 2 委員会は、地方学術会議に関する事項について審議する。

（組織）

第 3 委員会は、会長、副会長及び会員若干名をもって組織する。

（設置期限）

第 4 委員会は、平成 32 年 9 月 30 日まで置かれるものとする。

（庶務）

第 5 委員会の庶務は、事務局各課・参事官の協力を得て、事務局企画課において処理する。

（雑則）

第 6 この要綱に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

【機能別委員会】

○委員の決定（追加1件）

（科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会）

氏名	所属・職名	備考	推薦
相澤 清晴	東京大学大学院情報理工学系研究科教授	第三部会員	副会長

○委員の決定（新規1件）

（科学者委員会ゲノム編集技術に関する分科会）

氏名	所属・職名	備考	推薦
伊藤 公雄	京都産業大学現代社会学部客員教授（ダイバーシティ推進室長兼任）	第一部会員	※委員会
高山 佳奈子	京都大学大学院法学研究科教授	第一部会員	第一部
大杉 立	東京農業大学客員教授	第二部会員	※委員会
佐治 英郎	京都大学特任教授、京都大学名誉教授	第二部会員	第二部
武田 洋幸	東京大学大学院理学系研究科長・教授	第二部会員	※委員会
名越 澄子	埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科教授	第二部会員	※委員会
石井 哲也	北海道大学安全衛生本部（ライフサイエンス系研究安全担当）教授	連携会員	副会長
島菌 進	上智大学大学院実践宗教学研究科教授	連携会員	第一部
松本 健郎	名古屋大学大学院工学研究科教授	連携会員	第三部

○科学と社会委員会運営要綱（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後				改正前			
(略)				(略)			
(分科会)				(分科会)			
第2 委員会に、次の表のとおり分科会及び小委員会を置く。分科会及び小委員会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首及び適時に分科会及び小委員会の設置について幹事会に提案する。				第2 委員会に、次の表のとおり分科会及び小委員会を置く。分科会及び小委員会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首及び適時に分科会及び小委員会の設置について幹事会に提案する。			
分科会	調査審議事項	構成	備考	分科会	調査審議事項	構成	備考
	(略)				(略)		
年次報告検討分科会	年次報告書の執筆・編集に関すること	副会長（日本学術会議会則第5条第2号担当）及び各部の部長並びに会員及び連携会員若干名	設置期間：平成29年12月22日～平成32年9月30日	年次報告検討分科会	年次報告書の執筆・編集に関すること	副会長（日本学術会議会則第5条第2号担当）及び各部の部長並びに連携会員若干名	設置期間：平成29年12月22日～平成32年9月30日
	(略)				(略)		
(略)				(略)			

附則（平成30年5月31日日本学術会議第264回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

【機能別委員会】

○委員の決定（追加1件）

（科学と社会委員会年次報告検討分科会）

氏名	所属・職名	備考	推薦
町村 敬志	一橋大学大学院社会学研究科教授	第一部会員 第一部幹事	第一部
丹下 健	東京大学大学院農学生命科学研究科長・教授	第二部会員 第二部幹事	第二部
高橋 桂子	国立研究開発法人海洋研究開発機構地球情報基盤センターセンター長	第三部会員 第三部幹事	第三部

○委員の決定（新規1件）

（国際委員会科学者に関する国際人権対応分科会）

氏名	所属・職名	備考	推薦
栗田 禎子	千葉大学大学院人文科学研究院教授	第一部会員	第一部
高山 佳奈子	京都大学大学院法学研究科教授	第一部会員	第一部
吾郷 眞一	立命館大学法学部特別招聘教授	連携会員	武内副会長
阿部 浩己	明治学院大学国際学部教授	連携会員	三成副会長、第一部
有信 睦弘	国立大学法人東京大学政策ビジョン研究センター特任教授	連携会員	第三部
井野瀬 久美恵	甲南大学文学部教授	連携会員	三成副会長
鈴木 賢	明治大学法学部教授、北海道大学名誉教授	連携会員	第一部
原山 優子	東北大学名誉教授	連携会員	渡辺副会長

分野別委員会運営要綱(平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

改正後					改正前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
史学委員会	史学委員会中高大歴史教育に関する分科会	1. 中学校・高校・大学等の歴史教育をめぐる諸問題とその学術的背景の検討 2. 歴史教育の中高大連携問題 3. 提言の創出に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	平成29年10月4日～平成32年9月30日	史学委員会	史学委員会中高大歴史教育に関する分科会	1. 中学校・高校・大学等の歴史教育をめぐる諸問題とその学術的背景の検討 2. 歴史教育の中高大連携問題 3. 提言の創出に係る審議に関すること	15名以内の会員又は連携会員	平成29年10月4日～平成32年9月30日
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
地域研究委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	地域研究委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会地域情報分科会	(略)	(略)	(略)	地域研究委員会	地域研究委員会地域情報分科会	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会地域情報分科会地域の知小委員会	「地域の知」の構築・共有・実践のための情報基盤の形成や実現のための推進戦略の審議に関すること	20名以内の会員若しくは連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者	平成30年5月31日～平成32年9月30日		(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
物理学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	物理学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	物理学委員会・化学委員会合同国際周期表年記念事業検討分科会	化学委員会に記載	化学委員会に記載	化学委員会に記載		(新規設置)			
地球惑星科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	地球惑星科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	地球惑星科学委員会人材育成分科会	(略)	(略)	(略)	地球惑星科学委員会	地球惑星科学委員会人材育成分科会	(略)	(略)	(略)
	地学・地理初等中等教育検討小委員会	1. 地学・地理の初等中等教育 2. 現状把握と改善方向に係る審議に関すること	15名以内の会員若しくは連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者	平成30年5月31日～平成32年9月30日		(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

化学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	物理学委員会・化学委員会合同国際周期表年記念事業検討分科会	1.2019国際周期表年記念事業実行委員会の設置 2. 2019国際周期表年記念事業の実施計画のモニターならびに意見交換を行う 3. 各種学協会との連携について検討等に係る審議に関すること	15名以内の会員又は連携会員	平成30年5月31日～平成32年3月31日
総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会	(略)	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会	1. 海と空・宇宙の技術開発論と社会実装 2. 地球環境、安全保障、防災・減災への取り組み 3. フロンティア人工物に関する国際連携、教育・文化に係る審議に関すること	25名以内の会員又は連携会員	平成30年5月31日～平成32年9月30日
	(略)	(略)	(略)	(略)
機械工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	機械工学委員会機会工学の将来展望分科会	1. 機械工学を基盤とした学術分野及び産業分野の現状や動向に関する情報交換の場の形成 2. 機械工学及び関連分野の体系を調査し、機械工学のあり方とともに強化と発展を促すための方策 3. イノベーションの創出、及び社会や国民へのさらなる貢献を目指した機械工学の将来展望に関する検討と提言に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	平成30年5月31日～平成32年9月30日
	総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

化学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	(新規設置)			
総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会	(略)	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)
	(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)
機械工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	(新規設置)			
	(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附 則
この決定は、決定の日から施行する。

【24期にて初設置3件】

地球惑星科学委員会人材育成分科会小委員会の設置について

分科会等名：地学・地理学初等中等教育検討小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	地球惑星科学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員若しくは連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	人材育成分科会では、大学・大学院教育に関する事項と高校をはじめとする初等中等教育の地学・地理教育に関する事項を取り扱う2つのミッションが設定された。本小委員会は、このうち初等中等教育における分野を担当し、理科・地学・地理の履修状況、教員採用の実態などの現状を把握し、その問題点を議論し、改善に関する提案を行うことを主たる目的とする。
4	審議事項	地学・地理の初等中等教育現状把握と改善方向に係る審議に関すること
5	設置期間	平成30年5月31日～平成32年9月30日
6	備考	※24期にて初設置

物理学委員会・化学委員会合同分科会の設置について

分科会等名：国際周期表年記念事業検討分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○化学委員会 物理学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>タラソバ前IUPAC会長を中心として国際周期表年 (International Year of the Periodic Table of Chemical Elements; IYPTはその呼称である) の発起書がUNESCOへ提出され、2019年が国際周期表年として決定された。IUPACに対する日本代表機関である日本学術会議(化学委員会)は2019年の日本国内における国際周期表年に関わる事項を扱い、国際周期表年に関する事業を推進するため、それらが完了する2020年を含む2019年度末まで活動する分科会として世界周期表年記念事業検討分科会を設置することを提案する。</p> <p>国際周期表年は、2019年がメンデレーフが周期表の完成を予測した1869年から150周年を迎えることを記念するために制定され、同時に、ニホニウム(113番元素)等の超重元素の発見により周期表の第7周期が完成したことを祝うものである。化学と物理の双方にまたがる事柄であるため本分科会は化学委員会と物理委員会に所属する形で設置し、化学と物理の委員の双方の協力のもと各種日本における国際周期表年記念事業について検討していく。</p> <p>また、本分科会を設置した後に、日本学術会議メンバーと有識者をメンバーとし、各種事業を実施する実行委員会を設置し、啓発活動を行う。日本化学会、日本物理学会をはじめとする化学系・物理系の協力学術研究団体、超重元素発見に大きく貢献してきた理研仁科センター等に協力を要請し、各種事業の推進を促進する。</p>
4	審議事項	<p>1. 2019国際周期表年記念事業実行委員会の設置</p> <p>2. 2019国際周期表年記念事業の実施計画のモニターならびに意見交換を行う</p> <p>3. 各種学協会との連携について検討等に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	平成30年5月31日～平成32年3月31日
6	備考	※24期にて初設置

機械工学委員会分科会の設置について

分科会等名：機械工学の将来展望分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	機械工学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>機械工学は、力学を基礎とした四力学に代表される「材料力学」、「流体力学」、「熱力学」、「機械力学」の学術分野を中心に、多岐かつ多様な応用分野にわたって進化し、また、我が国の産業を支えてきた。一方、近年、自動走行車やロボットに見られるように、AIやビッグデータとものづくりが組み合わせられることで、仮想空間と現実空間を高度に融合したシステムの実現が試みられている。このように、四力学の枠組みを超え、様々な新しい分野との融合が進み、機械工学は新しい局面を迎えている。</p> <p>本分科会では、各分野の専門家を集め、横断的総合技術としての機械工学のあり方について検討する。そして、イノベーションへとつなげていくために、機械工学の将来展望について検討し、マスタープランや提言としてまとめて行くことを目指す。</p>
4	審議事項	<p>1. 機械工学を基盤とした学術分野及び産業分野の現状や動向に関する情報交換の場の形成</p> <p>2. 機械工学及び関連分野の体系を調査し、機械工学のあり方とともに強化と発展を促すための方策</p> <p>3. イノベーションの創出、及び社会や国民へのさらなる貢献を目指した機械工学の将来展望に関する検討と提言に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	平成30年5月31日～平成32年9月30日
6	備考	※24期にて初設置

史学委員会分科会の設置について

分科会名：中高大歴史教育に関する分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	史学委員会
2	委員の構成	<u>20名</u> 以内の会員又は連携会員
3	設置目的	第24期始めに行う公開シンポジウム『『歴史総合』をめぐって(2)－中学校と高校の歴史教育を考える－』を準備するために暫定設置した「高校歴史教育に関する分科会」の活動を継続発展させるために、本分科会を設置したい。また、シンポジウムの終了後の議論を踏まえ、高校歴史教育だけでなく、中学校から高校、さらに大学までの歴史教育全体のあり方を議論していくための場を設けるため、分科会の名前を改めるとともに、設置期間を平成32年9月30日まで延長して設置する。
4	審議事項	1. 中学校・高校・大学等の歴史教育をめぐる諸問題とその学術的背景の検討 2. 歴史教育の中高大連携問題 3. 提言の創出 に係る審議に関すること
5	設置期間	平成29年10月4日～平成32年9月30日
6	備考	※委員の構成の変更

地域研究委員会地域情報分科会小委員会の設置について

分科会等名：地域の知小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	地域研究委員会
2	委員の構成	20名以内の会員若しくは連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	2008年に日本学術会議地域研究委員会より提言「「地域の知」の蓄積と活用に向けて」の提言を発出した。そこでは、行政組織や研究機関が蓄積した地域の情報はもちろん、日常生活地域、国内の各地域、世界の各地域にわたる地域に生きる人々が育んできた情報、知識、知恵を含む「地域の知」を、地域特有の事情を十分理解しつつ、有効に活用することが不可欠であり、かけがえのない「地域の知」を積みあげ、適正に活用するために、「地域の知」を未来へ受け渡していかなければならないとしている。この提言を基に、「地域の知」を研究者同士でシェアするためのプラットフォームの構築をし、地域研究を含む地域を研究対象とする多くの専門分野において発展させるために、体制を検討し、その実現のためのロードマップを作成し、必要な提言や周知活動を行う。
4	審議事項	「地域の知」の構築・共有・実践のための情報基盤の形成や実現のための推進戦略の審議に関すること
5	設置期間	平成30年5月31日～平成32年9月30日
6	備考	※事実上23期からの継続

総合工学委員会分科会の設置について

分科会等名：フロンティア人工物分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○総合工学委員会 機械工学委員会
2	委員の構成	25名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>海と空・宇宙は、システムによる人間活動を展開するフロンティアであり、エネルギー、資源、空間移動・利用、地球環境問題への対応など地球人間社会に有益な場であり、その利用技術開発と科学的解明が必要である。このシステムがフロンティア人工物である。</p> <p>フロンティア人工物は、学際的な巨大複雑系であり、その科学的アプローチの確立とともに、このシステム開発には、材料から部品、システムにいたる多様な新技術開発が必要で長期間にわたる国家的な投資や国際連携も重要である。さらに産業論や国家安全保障、人材育成からの観点からの議論も必要である。</p> <p>二年間でフロンティア人工物の理解と利用のための学術的体系化の具体的な内容と、実現と社会実装への道筋について検討、提言する。</p>
4	審議事項	<p>1. 海と空・宇宙の技術開発論と社会実装</p> <p>2. 地球環境、安全保障、防災・減災への取り組み</p> <p>3. フロンティア人工物に関する国際連携、教育・文化に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	平成30年5月31日～平成32年9月30日
6	備考	※事実上23期からの継続

【委員会及び分科会】

○委員の決定（新規2件）

(物理学委員会物理教育研究分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
岡 眞	東京工業大学理学院教授	連携会員
駒宮 幸男	東京大学大学院理学系研究科教授	連携会員
笹尾 真実子	東北大学名誉教授	連携会員
芝井 広	大阪大学大学院理学研究科教授	連携会員
新永 浩子	鹿児島大学学術研究院准教授	連携会員
千葉 柁司	東北大学大学院理学研究科教授	連携会員
笠 潤平	香川大学教育学部教授	連携会員

(物理学委員会・化学委員会合同国際周期表年記念事業検討分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
田村 裕和	東北大学大学院理学研究科教授	第三部会員
茶谷 直人	大阪大学大学院工学研究科教授	第三部会員
野尻 美保子	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授	第三部会員
大塚 孝治	東京大学大学院理学系研究科名誉教授、理化学研究所仁科加速器センター客員主管研究員	連携会員
酒井 健	九州大学大学院理学研究院化学部門教授	連携会員
櫻井 博儀	東京大学大学院理学系研究科教授、理化学研究所仁科加速器科学研究センター副センター長	連携会員
瀧川 仁	東京大学物性研究所新物質科学究部門教授	連携会員
巽 和行	名古屋大学物質科学国際研究センター特任教授	連携会員
所 裕子	筑波大学数理物質系教授	連携会員

長谷川 美貴	青山学院大学工学部化学・生命科学科教授	連携会員
山内 薫	東京大学大学院理学系研究科教授	連携会員

○委員の決定（追加5件）

（社会学委員会新しい社会的課題の解決に関する総合的検討分科会）

氏名	所属・職名	備考
石井クンツ 昌子	お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授	連携会員
友枝 敏雄	大阪大学未来戦略機構特任教授・大阪大学名誉教授	連携会員
野宮 大志郎	中央大学文学部教授	連携会員
吉原 直樹	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授	連携会員

（史学委員会中高大歴史教育に関する分科会）

氏名	所属・職名	備考
河村 豊	東京工業高等専門学校一般教育科教授	連携会員

（臨床医学委員会脳とこころ分科会）

氏名	所属・職名	備考
辻 省次	東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻神経内科教授、国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授	連携会員

（臨床医学委員会臨床研究分科会）

氏名	所属・職名	備考
曾根 三郎	徳島市病院局病院事業管理者	連携会員

（環境学委員会都市と自然と環境分科会）

氏名	所属・職名	備考
増田 聡	東北大学大学院経済学研究科教授	連携会員

【小委員会】

○委員の決定（新規4件）

（政治学委員会比較政治分科会 社会的投資政策研究小委員会）

氏名	所属・職名	備考
眞柄 秀子	早稲田大学政治経済学術院教授	第一部会員
磯崎 典世	学習院大学法学部教授	連携会員
大串 和雄	東京大学大学院法学政治学研究科教授	連携会員
小川 有美	立教大学法学部教授	連携会員

（化学委員会化学企画分科会情報科学との融合による新化学創成小委員会）

氏名	所属・職名	備考
相田 美砂子	広島大学理事・副学長	第三部会員
阿尻 雅文	東北大学材料高等科学高等研究所教授	第三部会員
加藤 昌子	北海道大学大学院理学研究院化学部門教授	第三部会員
君塚 信夫	九州大学大学院工学研究員応用化学部門主幹教授	第三部会員
菅原 洋子	北里大学理学部名誉教授	第三部会員
関根 千津	住友化学株式会社理事、研究主幹	第三部会員
茶谷 直人	大阪大学大学院工学研究科教授	第三部会員
所 千晴	早稲田大学理工学院教授	第三部会員
中村 栄一	東京大学名誉教授	第三部会員
橋本 和仁	国立研究開発法人物質・材料研究機構理事長、東京大学教授	第三部会員
渡辺 芳人	名古屋大学理事・副総長	第三部会員
阿久津 典子	大阪電通大工学部教授	連携会員
上村 みどり	帝人ファーマ株式会社生物医学総合研究所	連携会員

(環境学委員会環境思想・環境教育分科会環境教育の思想的アプローチ検討小委員会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
豊田 光世	新潟大学研究推進機構朱鷺・自然再生学研究センター准教授	連携会員

(地球惑星科学委員会人材育成分科会地学・地理初等中等教育検討小委員会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
大路 樹生	名古屋大学博物館教授	連携会員
小口 高	東京大学空間情報科学研究センター教授	連携会員
北里 洋	東京海洋大学海洋資源環境学部特任教授	連携会員
西 弘嗣	東北大学学術資源研究公開センター教授	連携会員

部が直接統括する分野別委員会合同分科会の設置について

合同分科会の名称：第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会

1	担当部及び関係委員会名	第三部
2	委員の構成	25名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	第三部が所掌する理学・工学において、ダイバーシティ、特に男女共同参画を促進する上で障壁となる各学問分野が独自に持つ課題、理学工学共通の課題を、総合的、組織的、恒常的に検討し、課題解決のための施策作成と実施を支援することにより、理学工学、ひいては学術全体の男女共同参画を核としたダイバーシティを促進することを目的とする。
4	審議事項	1. 理工学における課題抽出と整理 2. 施策検討と実施の支援 3. 学術全体の男女共同参画とダイバーシティの促進に係る審議に関すること
5	設置期間	平成30年5月31日～平成32年9月30日
6	備考	※24期にて初設置

○委員の決定（新規1件）

（第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会）

氏名	所属・職名	備考
加藤 昌子	北海道大学大学院理学研究院化学部門教授	第三部会員
野尻 美保子	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授	第三部会員
藤井 良一	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構長	第三部会員
渡辺 美代子	国立研究開発法人科学技術振興機構副理事	第三部会員

【課題別委員会】

○委員の決定（追加 1 件）

（自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考	推 薦
萩原 一郎	明治大学研究・知財戦略機構・特任教授、東京工業大学名誉教授	連携会員	副会長
宮崎 久美子	東京工業大学環境・社会理工学院イノベーション科学系教授、放送大学客員教授	連携会員	副会長

代表派遣：平成30年7－9月期の会議派遣候補者

提案 9

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職 名)
			計		
1	国際科学会議(ICSU)理事会、国際学術会議(ISC)設立総会及びISC理事会	7月2日 ～ 7月6日	5 日	パリ ----- フランス	巽 和行 連携会員 名古屋大学名誉教授、名古屋大学物質科学国際研究センター特任教授
2	国際学術会議(ISC)設立総会	7月3日 ～ 7月4日	2 日	パリ ----- フランス	山極 壽一 第2部会員 京都大学総長
3	国際学術会議(ISC)設立総会	7月3日 ～ 7月5日	3 日	パリ ----- フランス	武内 和彦 第2部会員 公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、東京大学特任教授
4	国際学術会議(ISC)設立総会	7月3日 ～ 7月5日	3 日	パリ ----- フランス	町村 敬志 第1部会員 一橋大学大学院社会学研究科教授
5	国際学術会議(ISC)設立総会	7月3日 ～ 7月5日	3 日	パリ ----- フランス	春日 文子 連携会員 国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー
6	国際学術会議(ISC)設立総会及びISC理事会	7月3日 ～ 7月6日	4 日	パリ ----- フランス	齋藤 安彦 連携会員 日本大学総合科学研究所教授
7	国際学術会議(ISC)設立総会及び世界社会科学フォーラム(WSSF)運営会議	7月3日 ～ 7月6日	4 日	パリ ----- フランス	宮本 一夫 特任連携会員 九州大学副学長・附属図書館長・文書館長
8	太陽地球系物理学・科学委員会(SCOSTEP)VarSITIプログラム運営会議	7月9日 ～ 7月13日	5 日	トロント ----- カナダ	塩川 和夫 特任連携会員 名古屋大学宇宙地球環境研究所教授

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職 名)
			計		
9	国際人類学民族科学連合 (IUAES) 第18回 世界大会	7月12日 ～ 7月21日	10 日	フロリアノポリス —— ブラジル	小泉 潤二 連携会員 大学共同利用機関法人人間文化研究機構監事、大阪大学名誉教授
10	宇宙空間研究委員会 (COSPAR) 総会等	7月14日 ～ 7月22日	9 日	パサデナ —— アメリカ	新井 康平 特任連携会員 佐賀大学名誉教授、佐賀大学大学院工学系研究科客員研究員
11	S-20会合 共同声明手交式	7月24日 ～ 7月25日	2 日	ロサリオ —— アルゼンチン	小崎 隆 連携会員 愛知大学国際コミュニケーション学部教授、京都大学名誉教授
12	国際数学連合 (IMU) 総会及び国際数学者 会議	7月29日 ～ 8月9日	12 日	サンパウロ、リオデジャネイロ —— ブラジル	清水 扇丈 連携会員 京都大学人間・環境学研究科教授
13	国際地理学連合 (IGU) 2018年国際地理学会 議 (RC) 及び執行委員会	8月5日 ～ 8月10日	6 日	ケベック —— カナダ	氷見山 幸夫 連携会員 北海道教育大学名誉教授
14	第21回国際土壌科学会議総会等	8月12日 ～ 8月17日	6 日	リオデジャネイロ —— ブラジル	小崎 隆 連携会員 愛知大学国際コミュニケーション学部教授、京都大学名誉教授
15	第22回国際鉱物学連合会議 (IMA 2018)	8月13日 ～ 8月17日	5 日	メルボルン —— オーストラリア	大藤 弘明 特任連携会員 愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター教授
16	哲学系諸学会国際連合総会及び第24回世 界哲学会大会	8月13日 ～ 8月20日	8 日	北京 —— 中国	納富 信留 連携会員 東京大学大学院人文社会系研究科教授

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職 名)
			計		
17	国際天文学連合 (IAU) 第30回総会	8月20日 ～ 8月31日	12 日	ウィーン ----- オーストリア	渡部 潤一 連携会員 大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台教授
18	2018海洋研究科学委員会 (SCOR) 総会	9月4日 ～ 9月6日	3 日	プリマス ----- イギリス	山形 俊男 連携会員 国立研究開発法人海洋研究開発機構アプリケーションラボ特任上席研究員
19	IAP合同総会及び理事会	9月5日 ～ 9月6日	2 日	ベルン ----- スイス	武内 和彦 第2部会員 東京大学国際高等研究所サステイナビリティ学連携研究機構機構長・特任教授

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職 名)
			計		

4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【平成30年度第2四半期】追加募集

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間10回程度
- (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計3件まで
- (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【平成30年度第2四半期】追加募集 全1件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案10 [p. 41-42]	エネルギー科学技術教育の 現状と課題	平成30年 9月8日(土)	日本学術 会議講堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- (1) 各年度32回まで、及び四半期ごとにおおむね8回
(ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【平成30年度第2四半期】追加募集 全1件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所
1	提案11 [p. 43]	国際光デー記念シンポジウム	平成30年 7月7日(土)	日本学術会議 講堂

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム（平日 1 件/土日 2 件） 全 3 件 残り：7 件
 （内訳）※現在の 3 件につき、すべて経費及び人的負担要

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
学術フォーラム	(土日)	-	2		
	(平日)	1	-		
合計		1	2		

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む）全 7 件 残り：25 件
 （内訳）

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
シンポジウム	第一部	1	2		
	第二部	-	-		
	第三部	-	1		
	若手アカデミー	-	1		
	課題別	-	-		
学術フォーラム（土日）		-	2		
合計		1	6		

■承認済み案件一覧

1. 学術フォーラム

	テーマ	開催日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	「ジェンダー視点が変わる科学・技術の未来」	平成 30 年 6 月 14 日 (木)	日本学術会議講堂	要	要
2	「軍事的安全保障研究の現状と課題—日本学術会議科学者委員会アンケート調査結果をふまえて—」	平成 30 年 9 月 22 日 (土)	日本学術会議講堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

	テーマ	開催日時	主催委員会等	
1	「移民と人間の安全保障をジェンダー視点で考える」	平成 30 年 6 月 9 日 (土)	社会学委員会ジェンダー研究分科会	第一部
2	「〈所有権〉を問い直す：歴史・比較・理論（仮題）」	平成 30 年 7 月 21 日 (土)	法学委員会	第一部
3	「若手アカデミーが考えるシチズンサイエンスに基づいた学術横断的社会連携」	平成 30 年 7 月 28 日 (土)	若手アカデミーイノベーションに向けた社会連携分科会	若手アカデミー
4	「いま高校歴史教育を考える（仮題）」	平成 30 年 8 月 4 日 (土)	史学委員会中高大歴史教育に関する分科会	第一部

日本学術会議主催学術フォーラム「エネルギー科学技術教育の現状と課題」（仮題）の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 共 催：日本エネルギー学会「エネルギー学」部会（予定）
関東甲信越エネルギー教育地域会議（予定）
3. 後 援：無
4. 日 時：平成30年9月8日（土）13：00～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定
(総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会)

7. 開催趣旨：

クリーンで経済的なエネルギー供給は現代社会の基盤であり、地球温暖化問題とも密接な関係があり、人類社会の持続可能な発展を支える重要な柱である。しかし、エネルギー問題は、科学・技術分野から社会・経済分野まで広範囲の学術に関わる大変複雑な問題であるため、総合的な把握が必要にも拘らず、一般には部分的にしか理解されていない。そこで、エネルギーと科学技術に関する分科会では、エネルギーに関する学校教育をはじめ社会全体を対象とした教育の問題が重要であり、またエネルギー科学技術と社会との接点をどう作っていくかを検討する必要があるとの認識に基づき、社会的視点も含めて、エネルギー科学技術に関する教育の課題について、学術フォーラムを企画した。現場で教育を行っている先生方の講演等に基づき、エネルギー問題にかかわる学術から社会への情報発信を効果的に行うために何をすべきかを考えたい。

8. 次 第：

開会・趣旨説明 鈴置 保雄（日本学術会議第三部会員、
愛知工業大学工学部電気学科電気工学専攻教授）

講演

1. 「エネルギー・科学技術教育の現状」 藤本 登（長崎大学教育学部教授）
2. 「理科の実践事例」 大谷 健一郎（川崎市立中野島中学校教諭）
3. 「社会の実践事例」 関谷 文宏（筑波大学附属中学校主幹教諭）
4. 「技術の実践事例」 河野 卓也（大津市立志賀中学校主幹教諭）

パネルディスカッション

ファシリテータ：山地 憲治（日本学術会議連携会員、
公益財団法人地球環境産業技術研究機構(RITE)理事・研究所長）

パネリスト：藤本 登（長崎大学教育学部教授）
大谷 健一郎（川崎市立中野島中学校教諭）
関谷 文宏（筑波大学附属中学校主幹教諭）
河野 卓也（大津市立志賀中学校主幹教諭）
島崎 洋一（山梨大学生命環境学部准教授）

閉会 秋澤 淳（日本エネルギー学会「エネルギー学」部会長、
東京農工大学工学部 教授）

（下線の講演者は、学術会議関係者）

公開シンポジウム「国際光デー記念シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会 IC0 分科会
2. 共 催：国際光年協議会
3. 日 時：平成30年7月7日（土）15：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議 講堂 外1室
5. 分科会等の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

2015年の国際光年活動は盛会的に成功裏に終了したが、新たにユネスコが制定した国際光デーが2018年より発足している。今般、IC0分科会では、我が国の光の科学と技術に関わる歴史と新たな分野への発展を期待して、国際光デーの記念シンポジウムを開催することとした。本シンポジウムの開催により、研究者のみならず広く市民が集い、レーザーの黎明期を科学史の観点から振り返るとともに、光の脳科学への分野の発展を議論することにより、光の科学と技術の面白さを広く啓蒙することをめざす。

7. 次 第：

- 15：00 開会挨拶
五神 真（日本学術会議第三部会員、東京大学総長）
- 15：10 国際光年から国際光デーへ
荒川泰彦（日本学術会議連携会員、東京大学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構特任教授）
- 15：30 レーザーの黎明期
 霜田 光一（東京大学名誉教授）
- 16：15 光と脳科学
 宮脇敦史（理化学研究所シニアディレクター）
- 17：00 閉会挨拶
松尾 由賀利（日本学術会議第三部会員、法政大学工学部教授）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「高等学校での主権者教育はどうあるべきか」の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会政治過程分科会
2. 日 時：平成30年6月8日（金） 10：50～11：40
3. 場 所：明治大学付属明治高等学校
4. 分科会の開催：なし
5. 開催趣旨：18歳選挙権が導入されて2年が経過した。その間の18歳・19歳有権者の投票率を都道府県別にみるとかなりの地域差が存在する。東京都が常に全国最高の投票率を記録している。この違いは何に起因するのか。それを明らかにすることは、18歳・19歳有権者の投票率を引き上げる上で重要であろう。若いうちから「投票癖」をつけておくことは、長い目でみれば、有権者全体の投票率の向上に密接に関連する。当シンポジウムではそのような問題意識を下敷きに、①選挙学の専門家による18歳・19歳有権者の投票率について分析、②都選管担当者による若者の投票率向上を目指した実践例の報告、③ラウンドテーブルによる高校生との意見交換、を通じて標記課題を追究していきたい。
8. 次 第：
 - 司会・趣旨説明：
 - 西川 伸一（日本学術会議会員、明治大学政治経済学部教授）
 - 報告：
 - 河野 武司（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）
「高等学校での主権者教育の現状と課題」
 - 田宮 抄子（東京都選挙管理委員会事務局）
「東京都選管による高等学校での主権者教育の取組み」
 - ラウンドテーブル：
 - 西川伸一・河野武司・田宮抄子と高校生との意見交換
「高校生は主権者教育になにを期待するか」
9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「東日本大震災後の 10 年を見据えて」の開催について

1. 主 催：日本学術会議第一部、東北地区会議、国立大学法人東北大学
2. 共 催：東北大学文学研究科、東北大学法学研究科、東北大学東北アジア研究センター、東北大学災害科学国際研究所、東北大学「社会にインパクトある研究 人類社会の将来のための新たな理念の法学・政治学的定立」
3. 後 援：大学共同利用法人人間文化研究機構
3. 日 時：平成30年7月29日（日）13：30～16：45
4. 場 所：東北大学川内南キャンパス 文科系総合講義棟法学部第1講義室
5. 分科会等の開催：第一部会開催予定
6. 開催趣旨：東日本大震災が発生してから7年が経過した。その間、日本学術会議は復興・復旧のための提言や報告を行ってきた。本シンポジウムでは、報告「多様で持続可能な復興を実現するために一政策課題と社会学の果たすべき役割一」を取りまとめた吉原直樹氏、被災地の大学である東北大学で歴史資料保存の持つ社会的意義を探究している佐藤大介氏、被災地仙台の市長として復興・復旧に取り組んできた奥山恵美子氏を報告者としてお迎えし、日本学術会議、被災地の研究者コミュニティ、被災地自治体の有機的な連携の可能性を探る。
7. 次 第：
 - 13：00 開場
 - 13：30 開会挨拶
 - 大野 英男（日本学術会議第三部部長、東北大学総長）
 - 東北地区会議代表幹事挨拶
 - 厨川 常元（日本学術会議第三部会員・東北地区会議代表幹事、東北大学大学院医工学研究科研究科長）
 - 日本学術会議第一部部長挨拶
 - 佐藤 岩夫（日本学術会議第一部部長、東京大学社会科学研究所所長）
 - 14：00 「ひとつの復興、いくつもの復興——社会学からのアジェンダ設定に向けて」
 - 吉原 直樹（日本学術会議連携会員、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授）
 - 14：30 「『ふるさとの歴史』を救う意味—心理社会的支援としての歴史資料保全の可能性—」
 - 佐藤 大介（東北大学災害科学国際研究所准教授）
 - 15：00 「復旧・復興のプロセスから見た今後の課題—現場の視点から」
 - 奥山 恵美子（前仙台市長）

15 : 30－15 : 45 (休憩)

15 : 45 総合討論

(司会) 佐藤嘉倫 (日本学術会議第一部会員、東北大学大学院文学研究科副
研究科長)

(討論者) 吉原直樹、佐藤大介、奥山恵美子

町村敬志 (日本学術会議第一部幹事、一橋大学大学院社会学研究
科教授)

島田明夫 (東北大学公共政策大学院・法学研究科・災害科学国際研究
所教授)

16 : 45 閉会挨拶

三成美保 (日本学術会議副会長、第一部会員、奈良女子大学副学長)

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

(下線の講演者等は、主催部会員)

公開シンポジウム「新たな発見をもたらす科学における計測と予知・予測」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 IUPAB 分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会
2. 共 催：理化学研究所
3. 後 援：大阪大学蛋白質研究所
4. 日 時：平成30年8月31日（金）13：00～18：00
5. 場 所：日本学術会議 講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：近年の計測技術のめざましい進展により、科学分野において膨大な情報の取得が可能になり、これらの情報の解析を介した知識発見やデータ駆動的な予測がこれまで以上に重要になってきている。生命科学においては、ヒトゲノム解読以降、さまざまなオミクス情報、分子構造情報、細胞や個体のイメージング情報などの生命情報ビッグデータが容易に取得できるようになり、それらのデータ解析による生命の理解、疾患機序の予測、治療最適化が世界レベルで本格化している。これらの複雑な構造を有するデータ解析には、これまで生命科学が取り組んできたものとは異なる研究アプローチが必要であり、天文、物理、海洋、自然言語などの異分野で培われてきた解析技術や予測技術に生命応用への可能性が期待される。
本公開シンポジウムでは、ゲノムおよびイメージングの生命科学分野の研究者と、天文、地震、自然言語処理などの分野を超えた研究者が一堂に会し、我が国における研究交流プラットフォームを形成するとともに、計測と予知・予測の循環型研究をもたらすこれからの新しい科学を展望する。
8. 次 第：
コーディネーター
岡田真里子（日本学術会議連携会員、大阪大学蛋白質研究所教授）
佐甲靖志（日本学術会議連携会員、理化学研究所主任研究員）
上田昌宏（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻教授）

13：00-13：10 開会挨拶
佐甲靖志（日本学術会議連携会員、理化学研究所主任研究員）

13：00-16：40 講演
司会 岡田真里子（日本学術会議連携会員、大阪大学蛋白質研究所教授）

(登壇者予定)

飯野雄一 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授)
「線虫頭部の全神経の活動計測データから抽出する神経ネットワークの
ダイナミズム」

小原雄治 (日本学術会議連携会員、情報・システム研究機構データサイエンス共同利用
基盤施設ライフサイエンス統合データベースセンターセンター長)

「我々はどこから来たのか、どこへ行くのかーゲノム科学が示す生命観」

坂井南美 (理化学研究所坂井星・惑星形成研究室主任研究員)

「化学の眼で見る星形成：物理・化学・天文学の融合」

15:10-15:20 休憩

長尾大道 (東京大学地震研究所巨大地震津波災害予測研究センター准教授)

「計測と計算を融合するデータ同化の地震ビッグデータへの応用」

持橋大地 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所 数理・推論
研究系准教授)

「無限木構造隠れ Markov モデルと言語およびエピゲノム解析への応用」

16:40-16:50 休憩

16:50-17:50 総合討論

飯野雄一 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授)

小原雄治 (日本学術会議連携会員、情報・システム研究機構データサイエンス共同利用
基盤施設ライフサイエンス統合データベースセンターセンター長)

坂井南美 (理化学研究所坂井星・惑星形成研究室主任研究員)

原田慶恵 (日本学術会議連携会員、大阪大学蛋白質研究所教授)

長尾大道 (東京大学地震研究所巨大地震津波災害予測研究センター准教授)

野地博行 (日本学術会議連携会員、東京大学工学系研究科応用化学専攻教授)

持橋大地 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所 数理・推論
研究系准教授)

17:50-18:00 閉会挨拶

中村春木 (日本学術会議連携会員、国立遺伝学研究所 DDBJ センター特任教授、大阪
大学名誉教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(下線の講演者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「野生動物との共存を目指して」の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同ワイルドライフサイエンス分科会、京都大学野生生物研究センター
2. 日 時：平成30年6月11日（月）13：30～16：15
3. 場 所：京都大学 芝蘭会館 稲盛ホール
4. 分科会等の開催：開催予定
5. 開催趣旨：現代は野生動物の大量絶滅時代であり、その原因は言うまでもなく人間の活動である。人間と人間以外の野生動物が共存し、地球社会の調和ある共存を実現するためには我々はどうすればよいただろうか。その糸口はまず、野生動物の多様な姿を理解することにある。本シンポジウムでは、遺伝子から認知、生態まで多様な側面から野生動物の姿を描き出し、かれらの保全について幅広い立場から議論を深めることを目指す。
6. 次 第：
 - 13:30 開会の挨拶
山極 壽一（日本学術会議会長、京都大学総長）
 - 13:50－14:15 「遺伝子から解き明かす野生動物の秘密」
村山 美穂（日本学術会議特任連携会員、京都大学野生動物研究センター教授）
 - 14:15－14:40 「野生動物の行動を理解する」
幸島 司郎（京都大学野生動物研究センター教授）
 - 14:40－15:05 アフリカの野生動物の研究と保全」
伊谷原 一（京都大学野生動物研究センター教授）
 - 15:05－15:25 休憩
 - 15:25－15:50 「動物の心を探る」
平田 聡（日本学術会議連携会員、京都大学野生動物研究センター教授）
 - 15:50－16:15 「動物園との連携研究」
田中 正之（京都市動物園生き物・学びセンター長）
7. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「科学と市民と農業－科学技術イノベーションの役割－」
の開催について

1. 主催：日本学術会議食料科学委員会農業情報システム学分科会
日本生物環境工学会
東京農工大学大学院農学研究院農業環境工学部門
2. 後援：日本農業工学会、農業情報学会、農業食料工学会、農業農村工学会、農村計画学会、農業施設学会、日本農業気象学会、生態工学会、園芸学会（すべて予定）
3. 日時：9月21日（金）13:00-17:00
4. 場所：東京農工大学府中キャンパス大講堂（300人収容）
5. 分科会等の開催：開催予定
6. 開催趣旨：我が国の食料生産技術は、小規模田畑の高度な群管理システムとして発展しつつあり、経営規模の大小にかかわらず、食の安全の基盤技術として国際的にも注目を集めつつある。一方で、高齢化や労働力不足および農山村の過疎化の進行は、持続的な農業基盤を崩す危険信号であると指摘されて久しい。また、農産物輸入の増大や食品事故の多発など、食品の素性や安全に対する消費者の関心がかつてなく高まっている。このような中で、技術開発現場から食の消費に至る様々な利害関係者が課題を共有して食の安全を担保する社会システムの構築が求められている。ここに科学技術の重要な役割と期待がある。本シンポジウムでは、生産者や流通業者、そして消費者の間の情報共有の考え方と仕組み、農村地域の意識、生産者間の技術と知識の共有、新技術の開発と翻訳、などの事例を通じて、食料科学分野の学術的発展および研究開発の更なる進展を図るため、各界で活躍する多才な研究者を招き、広く意見聴取並びに学術交流を行なう。
7. 次第：
 - 13:00 開会の挨拶：
清水 浩（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授）
 - 13:10 SDGsにおける科学技術コミュニケーションの役割（仮）
渡辺美代子（日本学術会議副会長、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事）
 - 13:40 ノウハウと技術の結晶である農作業の翻訳（仮）
澁澤 栄（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）
 - 14:10 地域農業の担い手にいかに登場してもらおうか（仮）
中島 正裕（東京農工大学大学院農学研究院准教授）
 - 14:40 農業情報共有の技術と仕組み：本庄プロジェクトのめざすもの（仮）
島津 秀雄（NECソリューションイノベータ（株） 主席アドバイザー）
 - 15:10 ブルーベリー果実の周年収穫技術の開発と普及」（仮）
荻原 勲（東京農工大学理事・副学長）
 - 15:40-15:50 休憩

15:50 総合討論

渡辺美代子（日本学術会議副会長、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事）

澁澤 栄（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）

中島 正裕（東京農工大学大学院農学研究院准教授）

島津 秀雄（NEC ソリューションイノベータ（株）執行役員）

荻原 勲（東京農工大学理事・副学長）

位田晴久（日本学術会議連携会員、宮崎大学名誉教授）

16:50 閉会の挨拶：

高山弘太郎（日本学術会議連携会員、愛媛大学大学院農学研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、会員および分科会委員）

公開シンポジウム「高度実践看護師の裁量権拡大を考える
— 健やかな超高齢社会の実現へ向けて—」（予定）の開催について

1. 主催：日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会、日本看護系学会協議会
2. 共催：日本看護系大学協議会
3. 日時：平成30年6月27日(水) 15:45～17:30
4. 場所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：なし

6. 開催趣旨：

我が国の看護教育界は、平成10年に大学院における専門看護師教育課程認定を開始し、日本看護協会が個人認定を行うことにより2777名の専門看護師（Certified Nurse Specialist: CNS）を輩出してきた。日本看護系大学協議会ならびに日本NP教育大学院協議会においてナースプラクティショナー（NP）教育も開始されており、CNS、NPともに卓越した実践能力で現場実践の質向上に寄与している。日本学術会議看護学分科会では、日本看護系学会協議会及び日本看護系大学協議会と協議しながら、平成23年に「高度実践看護師の確立に向けて—グローバルスタンダードからの提言—」を発表した。しかしながら未だ裁量権にかかわる法律の改正は行われず、同様の教育制度を持つ諸外国から相当遅れをとっている。

多くの人々が病院ではなくコミュニティ（在宅）で医療を受けながら暮らす時代となり、医療から健康支援まで幅広く卓越した介入を行う高度実践看護師の裁量権を拡大し有効に機能させることが求められる。現行法の下で既に医師との信頼関係のもと裁量権を最大限活用している実践者の報告を交えて、今後必要となる法改正を見据えた意見交換を行いたい。

7. 次第：

座長 片田範子（日本学術会議第二部会員、日本看護系学会協議会会長、
関西医科大学看護学部学部長・看護学研究科研究科長）
小松浩子（日本学術会議第二部会員、慶應義塾大学看護医療学部教授、
大学院健康マネジメント研究科教授）

- | | |
|-------------|--|
| 15:50-16:10 | 大学病院—重要な CNS の役割
松原康美（がん看護専門看護師、北里大学看護学部准教授） |
| 16:15-16:35 | 訪問看護—ここまで広がる専門看護師の活動
安岡しずか（在宅看護専門看護師、医療法人新松田会在宅ケアセンター
あたご所長） |
| 16:40-17:00 | 本邦の高度実践看護職の現在と未来図
<u>井上智子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立看護大学校長）</u> |
| 17:00-17:30 | ディスカッション |

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「昆虫の恵みⅡ」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会
 2. 共 催： 日本昆虫科学連合
 3. 日 時：平成 30 年 7 月 28 日（土）13：00～16：45
 4. 場 所： 東京大学農学部 1 号館 8 番教室
 5. 分科会等の開催： 開催予定
 6. 開催趣旨：昨年、昆虫がヒトに与える恵みの多面性に焦点をあてた公開シンポジウム「昆虫の恵み—その多面性—」を開催したところ、180名を超える多くの方々の参加があり、社会的に関心の高いテーマであることが確認できた。そこで、本年はこのシンポジウムの続編「昆虫の恵みⅡ」として、高機能素材として注目を浴びている「クモの糸」の高機能性の発現メカニズムに関する最新の研究や、モデル昆虫であるカイコを「創薬に利用する試み」、「昆虫の機能や素材を人間社会に実装する試み」についての紹介、一般にはあまり認識されていない「野生昆虫の生態系サービス」について、特に送粉の重要性を、そして「泡を利用して水底を歩くハムシ」の興味深い「水中接着機構」とその応用可能性について、前回とは異なる分野について最新の研究成果を紹介するとともに、問題点も取り上げることで昆虫がヒトに与える恵みの大きさについて認識をさらに深める機会となることを期待している。
 8. 次 第：
 - 13：00 日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会活動報告
小野 正人（日本学術会議連携会員、玉川大学農学部教授）
 - 13：20 日本昆虫科学連合活動報告
 石川 幸男（日本昆虫科学連合代表、東京大学農学生命科学研究科教授）
- 講演（座長）池田 素子（日本学術会議第二部会員、名古屋大学生命農学研究科教授）
- 13：30 「網羅的シーケンシングによるクモ糸超高機能発現メカニズムの解明」
 荒川 和晴（慶応義塾大学環境情報学部准教授）
 - 14：00 「カイコモデルの創薬における利用」
 浜本 洋（帝京大学医真菌研究センター准教授）
 - 14:30 「ニューシルクロード：生物の機能や素材を社会実装へ」
 長島 孝行（東京農業大学農学部教授）
 - 15：00—15：15 （ 休憩 ）
 - 15：15 「野生昆虫による生態系サービス」
 滝 久智（国立研究開発法人森林研究・整備機構主任研究員）
 - 15：45 「泡を利用して水底を歩くハムシの水中接着機構」
 細田 奈麻絵（国立研究開発法人物質・材料研究機構グループリーダー）

16 : 15 総合討論

(座長) 池田 素子 (日本学術会議第二部会員、名古屋大学生命農学研究科教授)

16 : 45 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開学術講演会
「東日本大震災後の福島県立医科大学の対応－福島県『県民健康調査他』－」（仮題）の
開催について

1. 主 催：日本学術会議第二部
 2. 共 催：福島県立医科大学、福島医学会
 3. 後 援（申請予定）：
日本生命科学アカデミー、公益財団法人日本学術協力財団
 4. 日 時：平成 30 年 8 月 5 日（日）15:00～17:30
 5. 場 所：福島県立医科大学 講堂（福島県福島市光が丘 1）
 6. 部会の開催：第二部会を開催予定（5 日 13:00～15:00 及び 6 日午前中）
 7. 開催趣旨：2011（平成 23）年 3 月 11 日 14 時 46 分に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴う大津波により東日本大震災が起こり、特に、福島県では東京電力福島第一原子力発電所事故により、放射性物質が飛散するという事態となった。震災後 8 年目になり、避難指示解除になる地域、町村が徐々に増えている一方、未だ多くの避難者がおり、「震災は続いている」というのが実感である。福島県では、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故による放射性物質の拡散や避難等を踏まえ、将来にわたる県民の健康の維持、増進を図ることを目的とし、「県民健康調査」を実施している。福島県立医科大学は、県とこの目的を共有し、ふくしま国際医療科学センターを設置し、震災復興に取り組んでいる。今回は、特に「県民健康調査」を中心に、各分野の第一線の研究者の講演を企画した。
 8. 次 第
（司会）安村 誠司（日本学術会議第二部会員、福島県立医科大学理事・副学長、医学部教授）
- 開会挨拶
- 山極 壽一（日本学術会議会長・第二部会員、京都大学総長）
竹之下 誠一（福島県立医科大学理事長兼学長）
- 講演 「県民健康調査の概説」（仮題）
神谷 研二（日本学術会議第二部会員、広島大学副学長・特任教授、
福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センターセンター長）
- 講演 「県民健康調査の甲状腺検査・甲状腺がんについて」（仮題）
志村 浩己（福島県立医科大学医学部臨床検査医学講座教授、
放射線医学県民健康管理センター甲状腺検査部門長）

講演 「県民健康調査のこころの健康度・生活習慣調査
-精神心理的健康度の結果を中心に-」(仮題)
前田 正治 (福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座教授、
放射線医学県民健康管理センター健康調査県民支援部門長)

講演 「福島県『健康長寿ふくしま推進』体制と
福島県立医科大学 健康増進センターについて」(仮題)
大平 弘正 (福島県立医科大学医学部消化器内科講座教授、
ふくしま国際医療科学センター 健康増進センター長)

閉会挨拶
石川 冬木 (日本学術会議第二部部長・第二部会員、京都大学大学院生命科学
研究科教授)

(下線の講演者等は、主催部会員)

公開シンポジウム「グローバル時代のデータ利用と可視化」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：地球惑星科学連合、地理学連携機構（いずれも予定）
4. 日 時：平成 30 年 10 月 15 日（月） 13:30–17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：サイバー空間（仮想的データ空間）とフィジカル空間（現実社会）が高度に融合した超スマート社会(Society 5.0)では、ビックデータ、リアルタイムデータ、オープンデータなど様々なデータを、地球的なレベルから身近な地域社会のレベルまで、社会の合意形成に留意しつつ統合する必要がある。GIS などの高度情報システムを学術の英知を基に活用することで安全・安心な社会を構築する有効な手段ともなろう。本シンポジウムでは、地球人間圏科学に軸足を置き、データの集積、可視化、利用という観点から、社会との協働・協創を踏まえた議論を行いたい。
8. 次 第：
司会：小嶋智（日本学術会議連携会員 岐阜大学工学部教授）
- 13:30 開会挨拶と趣旨説明
春山成子（日本学術会議第三部会員 三重大学生物資源学部教授）
- 13:40 Society5.0 と「可視化情報」—科学技術からの貢献—
高橋桂子（日本学術会議第三部会員 海洋研究開発機構地球情報基盤センター長）
- 14:00 地理情報と空間リテラシー
石川徹（日本学術会議連携会員 東京大学大学院情報学環教授）
- 14:20 データ利用と可視化
村山泰啓（日本学術会議連携会員 情報通信研究機構ソーシャルイノベーションユニット戦略的プログラムオフィス研究統括）
- 14:40 ビックデータを用いた気候変動リスクへの対応
山形与志樹（日本学術会議連携会員 国立環境研究所・地球環境研究センター）

主席研究員)

- 15 : 00 ユビキタスと GIS と防災教育
伊藤悟 (日本学術会議連携会員 金沢大学人間社会研究域教授)
- 15 : 20 協働によるジオデザインのフレームワーク
矢野桂司 (日本学術会議連携会員 立命館大学文学部教授)
- 15 : 40 ウォーカビリティ –都市の環境から健康を考える -
山田育穂 (日本学術会議連携会員 中央大学理工学部教授)
- 16 : 00 未来へのランドデザインーシステム知・目標知・転換知の構築へ向けた可視化
谷口真人 (日本学術会議連携会員 総合地球環境学研究所副所長)
- 16 : 20 総合討論
(司会) 村山祐司 (日本学術会議連携会員 筑波大学生命環境系教授)
- 16 : 50 閉会の挨拶
平田直 (連携会員 東京大学地震研究所教授)
- 17 : 00 閉会
9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「キャビテーションに関するシンポジウム（第19回）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 機械工学委員会

2. 共 催(予定)：一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人農業農村工学会、一般社団法人ターボ機械協会、一般社団法人日本航空宇宙学会、一般社団法人可視化情報学会、一般社団法人日本流体力学会、一般社団法人日本フルードパワーシステム学会、公益社団法人日本マシニング学会、一般社団法人日本トライボロジー学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人火力原子力発電技術協会、日本混相流学会、一般社団法人日本ウォータージェット学会、一般社団法人日本生体医工学会、公益社団法人日本金属学会、公益社団法人日本材料学会、公益社団法人腐食防食学会、公益社団法人日本超音波医学会、日本ソグメスチー学会、非線形音響研究会、公益社団法人自動車技術会、日本液体微粒化学会

3. 日 時：平成 30 年 10 月 18 日（木）13：00～19：00
平成 30 年 10 月 19 日（金） 9：00～17：30

4. 場 所：北海道大学工学部フロンティア応用科学研究棟（札幌市北区）

5. 分科会の開催：開催なし

6. 開催趣旨：

日本学術会議機械工学委員会（従来は水力学・水理学専門委員会）の主催により、これまで18回（昭和50年5月19日、昭和53年4月6日、昭和58年10月3,4日、昭和60年6月17,18日、昭和62年6月16,17日、平成元年6月13,14日、平成4年10月13,14日、平成7年12月1,2日、平成9年10月30,31日、平成11年11月4,5日、平成13年9月28,29日、平成16年3月18,19日、平成18年6月2,3日、平成20年3月19,20日、平成22年11月22,23日、平成24年11月23,24日、平成26年11月20,21日、平成28年12月8,9日）行われている。第2回以降は上記の学協会が共催しており、毎回100名程度が参加している。

今回は、キャビテーションに関連した論文の発表と討論を2日間にわたって行い、当該研究分野の知見を高めることを目的として開催する。

7. 次 第：

【10月18日】

13：00 A室 開会の挨拶

松本 洋一郎（日本学術会議連携会員、東京理科大学学長、東京大学名誉教授）

13：10 A室 特別企画 1-1 キャビテーションの医療応用(1)

B室 セッション B1

15：00 A室 特別企画 1-2 キャビテーションの医療応用 (2)

B室 セッション B2

- 17:00 A室 特別講演 音響キャビテーションを利用した超音波治療（仮題）
講師 梅村 晋一郎（東北大学名誉教授）
司会 梶島 岳夫（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科教授）
- 18:15 懇親会

【10月19日】

- 9:00 A室 特別企画 2-1 流体機械（ポンプ、水車、プロペラ等）開発に
おけるキャビテーションの諸課題
B室 セッション B3
- 12:00 （休憩）
- 13:30 A室 セッション A1 流体機械（ポンプ、水車、プロペラ等）開発に
おけるキャビテーションの諸課題
B室 セッション B3
- 17:20 A室 閉会の辞
渡部 正夫（北海道大学工学研究院機械宇宙工学部門教授）
- 16:00 閉会

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催委員会委員）

※セッション A、B には気泡力学、気泡流、流体機械のキャビテーション、翼・翼列、騒音、振動等を予定しているが、講演発表の申込日締切日が、6月4日（月）のため、各セッションで題名、著者名は未定である。今回も昨年度と同程度の規模で、一般セッション講演約30件、特別セッション10件程度を予定している。

公開シンポジウム「安全工学シンポジウム 2018」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会

2. 共 催：

特定非営利活動法人安全工学会、公益社団法人化学工学会、一般社団法人火薬学会、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人自動車技術会、一般社団法人静電気学会、一般社団法人地域安全学会、公益社団法人低温工学・超電導学会、公益社団法人電気化学学会、一般社団法人電気学会、一般社団法人電気設備学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本化学会、公益社団法人日本火災学会、一般社団法人日本機械学会（幹事学会）、公益社団法人日本技術士会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本高圧力技術協会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、日本信頼性学会、公益社団法人日本心理学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本人間工学会、一般社団法人日本非破壊検査協会、一般社団法人日本溶接協会、公益社団法人日本冷凍空調学会

3. 日 時：平成 30 年 7 月 4 日（水）～7 月 6 日（金）10:00～16:00

4. 場 所：日本学術会議講堂 外 5 室。

5. 分科会の開催：開催なし

6. 開催趣旨：

わが国における安全に関する学際的なシンポジウムとして日本学術会議主催で 50 年近くにわたり継続して実施されてきている。毎年幹事学会が順番で担当し実行委員会を組織しテーマを決めて実施する。平成 30 年度は、第 48 回として日本機械学会が幹事学会となり企画・運営を行い、「安全をめぐる知識・知恵の継承」のテーマのもと開催される。共催学会名にみられるように多分野の研究者の発表の場であり、意見交換の場ともなっている。異分野間での安全に対する取り組みの差異、あるいは共通する理念について有意義な意見交換が期待でき、日本学術会議「自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会」のパネルディスカッション「自動車の自動運転の研究開発の現状と課題」、工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会の「工学システムの社会安全目標の実用化に向けて」、「老朽・遺棄化学兵器廃棄の安全と環境の保全に向けて」のオーガナイズドセッションを開催し、多分野の専門家からの意見集約も期待できる。

委員長：井上裕嗣（東京工業大学工学院教授）

実行委員会：吉村 忍、矢川元基、松岡猛、向殿政男、宮崎恵子、須田義大、野口和彦（日本学術会議総合工学委員会委員）および共催学協会各 1 名の委員より構成。

7. 次 第 (案) :

第1日 : 7月4日 (水)

挨拶 10:00~10:10

日本学術会議 総合工学委員会委員長

吉村 忍(日本学術会議第三部会員、東京大学副学長・大学院工学系研究科 教授)

安全工学シンポジウム 2018 実行委員長

井上裕嗣 (東京工業大学工学院教授)

パネルディスカッション 10:20~12:35

PD-1 リスクベース工学の最前線

座長 酒井信介 (横浜国立大学 リスク共生社会創造センター 客員教授、東京大学 名誉教授)

パネリスト 浅山 泰 (国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 高速炉・新型炉研究開発部門 大洗研究所 高速炉サイクル研究開発センター 副センター長)

酒井信介 (横浜国立大学 リスク共生社会創造センター 客員教授、東京大学 名誉教授)

岩崎 篤 (群馬大学 大学院工学研究科 准教授)

木原重光 (株式会社ベストマテリア 代表取締役社長)

佐々木哲也 (独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 機械システム安全研究グループ 部長)

早川悌二 (東京大学 非常勤講師)

藤本圭一郎 (国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 研究開発部門 第三研究ユニット 研究開発員)

パネルディスカッション 13:40~15:40

PD-2 産官学の機械安全の取組と事例

座長 笠井尚哉 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授)

パネリスト 岡本浩志 (J F E スチール株式会社 理事・安全健康部長)

西條広一 (オークマ株式会社 F A システム本部 主管技師)

安井省侍郎 (厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 安全課 副主任・中央産業安全専門官)

坂元耕三 (経済産業省 製造産業局 金属課 金属技術室長)

杉田吉弘 (チュフ ラインランド ジャパン株式会社 製品部 ビジネスプロモーション シニアマネジャー)

福田隆文 (長岡技術科学大学 大学院技術経営研究科 教授)

オーガナイズドセッション 10:00~15:20 (5件)

一般セッション 10:00~12:40 (20件)

第2日 : 7月5日 (木)

特別講演 12:30~13:30

「活かし」そして「つなぐ」実践的安全活動~機械安全の実践と人づくり~

古澤 登 (安全と人づくりサポート 代表)

パネルディスカッション 13:40～15:40

PD-3 安全教育と人材育成について（連携PD）

座長 伊藤 東（デンカ株式会社 特任顧問・安全工学グループ代表）

パネリスト 田村昌三（東京大学 名誉教授）

土橋 律（東京大学 大学院工学系研究科 教授）

中村 順（公益財団法人総合安全工学研究所 事業部長）

井田敦之（特定非営利活動法人災害情報センター 事務局長）

紙本孝雄（特定非営利活動法人安全工学会 保安力向上センター 事務長）

中田邦臣（特定非営利活動法人リスクセンス研究会 副理事長）

オーガナイズドセッション 10:00～15:40（6件）

一般セッション 10:00～15:40（16件）

第3日：7月6日（金）

パネルディスカッション 13:00～15:30

PD-4 自動車の自動運転の研究開発の現状と課題

座長 永井正夫（日本学術会議連携会員、一般財団法人日本自動車研究所 代表理事・研究所長、東京農工大学名誉教授）

鎌田 実（東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授）

パネリスト 毛利 宏（東京農工大学 大学院工学研究院 教授）

藤原静雄（中央大学 大学院法務研究科 教授）

須田義大（日本学術会議連携会員、東京大学 生産技術研究所 教授）

永井正夫（日本学術会議連携会員、一般財団法人日本自動車研究所 代表理事・研究所長、東京農工大学 名誉教授）

鎌田 実（東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授）

オーガナイズドセッション 10:00～15:50（5件）

一般セッション 10:00～15:40（28件）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は主催分科会委員）

公開シンポジウム
「SDGs 時代における資源開発後の鉱山環境対策のあり方」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 環境学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会 SDGs のための資源・材料の循環使用検討分科会
2. 共 催：資源・素材学会、東京大学生産技術研究所非鉄金属資源循環工学寄付研究部門
3. 後 援：日本鉱業協会、石油天然ガス・金属鉱物資源機構、化学工学会、環境資源工学会、資源地質学会、日本金属学会、日本鉄鋼協会、レアメタル研究会、鉱業新聞社、産業新聞社、セメント新聞社、鉄鋼新聞社、日本砕石新聞社
4. 日 時：平成 30 年 7 月 30 日（月）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：かつて金属資源大国であった日本には既に資源開発の役割を終えた鉱山が数多く存在し、そのうち 100 余では地道な鉱山廃水対策と、その処理が行われている。その継続的な努力によって近年は重篤な鉱害被害を生じていないが、今後さらに持続可能な対策を継続するためには、森林管理、治水管理、あるいは観光資源としての利用など、地域環境保全の維持、さらには向上を目指して取り組む必要がある。このような状況は日本のみにとどまらず、世界規模での持続可能な資源利活用を考えるべき現代においては、世界共通の課題となっている。資源開発の役割を終えた鉱山環境に対する持続的な対策として、引き続き鉱害防止対策に取り組む必要があるのはもちろんのこと、これまでにない新たな考え方や技術開発への挑戦が必要不可欠である。本シンポジウムは、環境学、資源工学、水環境工学などの専門家と共に、これからの資源開発後の鉱山環境のあり方を市民と共に考える機会としたい。

8. 次 第：

13：00 開会挨拶

中村 崇（日本学術会議第三部会員、東京大学特任教授）

13：10 企業責任はどこまで果たせば十分か～関係者間の合意形成が鍵～

安井 至（東京大学名誉教授、持続性推進機構理事長）

14：10 鉱山開発の重さ：持続可能な資源利用と鉱山閉山後の適正処理

村上 進亮（日本学術会議特任連携会員、東京大学准教授）

14：40－14：50 （ 休憩 ）

- 14 : 50 休廃止鉱山の持続的な環境管理に向けたグリーンメテイェーション
保高 徹生 (産業技術総合研究所主任研究員)
- 15 : 20 グリーンマイニングにジオミメティクスは貢献できるか
笹木 圭子 (日本学術会議連携会員、九州大学教授)

15 : 50-16 : 00 (休憩)

16 : 00 総合討論

(司会) 所 千晴 (日本学術会議第三部会員、早稲田大学教授)
(コメンテーター) 登坂博行 (東京大学名誉教授、地圏環境テクノロジー社長)
富山眞吾 (北海道大学特任教授)
小原義之 (日本原子力研究開発機構課長)
ならびに講演者

16 : 50 閉会挨拶

所 千晴 (日本学術会議第三部会員、早稲田大学教授)

9. 関係部の承認の有無 : 第三部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「人工知能(AI)やロボットは百寿社会を幸福にするのか？」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 情報学委員会 環境知能分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：一般社団法人情報処理学会（予定）
一般社団法人電子情報通信学会
IEEE 東京支部（予定）
4. 日 時：平成 30 年 9 月 13 日（木）13:00～17:00
5. 場 所：日本学術会議 講堂（1 階）
（※東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5 番出口 徒歩 1 分）
6. 分科会等の開催：あり

7. 開催趣旨：

2007 年に日本で生まれた子供の 50%が 107 歳まで生きるとの海外研究がある。官邸主導の人生 100 年時代構想会議にて超長寿社会におけるリカレント教育や人材採用、社会保障などの政策論議も始まっている。百歳を超えるセンテナリアン(百寿者)も含めた社会システムをデザインするには、人材を中心とした政策だけでは十分ではない。センテナリアンの体力・知力を補完し、かつ次世代逆手のコミュニケーションを活性化させる医学的・工学的支援のための科学・技術研究の進展と、若者と 100 年を超える人生を送るであろう子供達の QOL を支えるコミュニティ形成が不可欠である。特に、若者と子供の 100 余年に渡る睡眠から覚醒までの日常生活と経済的・精神的なライフスタイルのデザイン、それらを支える社会生活とエコシステムのデザインを統合的に行うには、日本学術会議を横断して取り組む必要がある。

上記を踏まえ、この度日本学術会議 情報学委員会 環境知能分科会では「人工知能(AI)やロボットは百寿社会を幸福にするのか？」というシンポジウムを開催する運びとなった。子供からセンテナリアンまで多様な世代から構成される百寿社会において、人工知能(AI)やロボットが幸福をもたらすことができるのかについて、現場で活躍されている識者、人工知能(AI)やロボットの研究者を交えて熱く議論する。

8. 次 第：

13:00 開会挨拶

萩田 紀博（日本学術会議第三部会員、株式会社国際電気通信基礎技術研究所
知能ロボティクス研究所・所長）

13:15 講演 1 AI やロボットは仕事を奪うか

土井 美和子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構・
監事）

13 : 35 講演 2 タイトル未定
伊藤 健三 (ニチイ学館)

14 : 05 講演 3 タイトル未定
調整中

14 : 45-15 : 00 (休憩)

15 : 00 パネルディスカッション
コーディネーター : 土井 美和子 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構・監事)

パネリスト : 伊藤 健三 (ニチイ学館)
後藤 真孝 (日本学術会議連携会員・産業技術総合研究所・首席研究員)
積山 薫 (日本学術会議連携会員・京都大学大学院総合生存学館・教授)
西田 眞也 (日本学術会議第一部会員、日本電信電話株式会社 コミュニケーション科学基礎研究所・上席特別研究員)
萩田 紀博 (日本学術会議第三部会員、株式会社国際電気通信基礎技術研究所 知能ロボティクス研究所・所長)

ほか

17 : 00 閉会

9. 関係部の承認の有無 : 第三部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)